

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

第2回 開催報告

伊那弥生ヶ丘高校ツアーと
自然や地形からまなぶまちづくり

2025.4.26

開催報告

テーマ

伊那弥生ヶ丘高校ツアーと自然や地形からまなぶまちづくり

開催概要

- 日時 : 2025年4月26日（土）13:00-16:00
- 開催場所 : いなっせから伊那弥生ヶ丘高校までの通学路
伊那弥生ヶ丘高校
伊那市生涯学習センター/ホワイエ
- 参加者 : 約70人

プログラム

1. みんなで巡る！伊那弥生ヶ丘高校ツアー

（いなっせから通学路を歩いて弥生ヶ丘高校へ向かい、高校の歴史や思い出とともに校内敷地を散策）
案内：下島 典子氏（伊那弥生ヶ丘高校同窓会長）

2. 流域から考えるまちづくり

（流域治水からまちづくりを考えてみましょう！話題提供：政金 裕太氏、氏原 睦子氏）
話題提供：政金 裕太氏（信州大学・ランドスケープアーキテクト）
氏原 睦子氏（むぎ環境計画）

3. 対話・交流タイム

みんなで巡る！伊那弥生ヶ丘ツアー



みんなで巡る！伊那弥生ヶ丘ツアー



みんなで巡る！伊那弥生ヶ丘ツアー



参加されたみなさんが印象に残った場所、風景を全員で共有

流域から考えるまちづくり



流域から考えるまちづくり 政金 裕太氏

- ・ 流域全体で治水の取り組みと利水の取り組みを組み合わせること = 流域治水
従来の治水的デザイン・・・早く集中的に下流へ流す
流域治水的デザイン・・・ゆっくり、分散的に、流域全体で水を留める
- ・ 流域治水の取組によって、防災以外の多様な効果が期待できる。
ex 地域共創流域治水プロジェクト（熊本県球磨川流域。雨庭の施工、竹筋コンクリートの取組）
- ・ 流域治水をきっかけにして、環境保全活動、雨庭づくり、地域産材の積極的な活用など様々な取組が始まっている。
大切なのは参加する人が「活動が楽しい、やりがいがある」と感じることや取組の効果や目的が多様なこと。
自然環境や流域とのつながりを意識した多様な取組が、地球環境にも良い影響を与えていく。

流域から考えるまちづくり



流域文化圏 氏原 睦子氏

- ・伊那弥生ヶ丘高校の場所は小黒川流域
特徴 ①安全な地の利 ②歴史的・文化的な場所

- ・水が非常に重要だった
日陰方・・・日当たりは悪いが水がふんだんにある ⇔ 日なた方

小沢川の水の経路をたどってみると人々の暮らしや生活がわかる。取水した水は下流域できちんと小沢川に戻していることも特筆すべきこと。

川だったところは川石を積んで作った石積みが今も残っている。水とともに生活していたことをうかがい知ることができる。

- ・弥生ヶ丘高校の跡地利用を考えるうえで、地形、これまでの歴史、自然に着眼し新しい視点で考えてみてはどうか。

対話交流タイム



○模型チーム（ファシリテーター 須永理葉）

- ・前半は模型を見ながら氏原さんに地形や水の流れ、日当たりなどについて、引き続き質問や参加者が知っていることを共有した。
- ・身近な場所であるはずなのに、なかなか上流や下流に目を向けたり鳥瞰的な視点で眺めることがないので、皆さん新鮮な気持ちのようだった。
- ・後半は感想や本日の参加理由をお聞きした。弥生に興味のある方、卒業生の方、まちづくりに興味のある方、河川や流域に興味のある方様々であった。
- ・これからの視点として、今日みんなで街をじっくり見て歩いたように、いろんなことを感じながらじっくりとまちのことを考える。過去から未来に何を繋ぐのか、これまでに多くの人が過ごしてきたまちだからこそじっくりと進めたい。そんなことを感じたワークの時間になった。



○テーマ「まちづくり」

- ・このイベントの感想や対話交流タイムで話したい話題を参加者からあげていただいた。
- ・第1部の弥生ヶ丘高校ツアーを受けて、歩くことでしか見えない景色が見つかったり、通学路を歩いて当時の暮らしや思いを知ることができ貴重な経験ができたという声があった。
- ・話したいテーマでは、「まちづくりの成功ってなんだろう」という本質的な問いから、みなさんで思い思いのいなまちの在り方について考える時間となった。

対話交流タイム



○政金さん講座（ファシリテーター 政金裕太）

- ・流域治水の講演に対する質問に答える形で対話が進んだ。
- ・雨の降り方や雨量に対する堤防の基準、ダムの話など専門的な質問から竹筋コンクリートや雨庭など身近な課題解決への関心から来る質問もあり、参加者の幅広い興味が伺えた。
- ・流域という一見するとスケールが大きいと思われる話題が、皆さんの関心に重なっていたことがうれしく思えた。
- ・予想以上に流域治水や雨のことに関心がある方がいたことが驚きだった。伊那谷の人は山と川が近いこともあるからなのか、「自然環境とのつながり」「流域はつながっている」という感覚をよくお持ちなのかなと思った。また、具体的な内水氾濫がおきやすそうな場所の名前が挙がったので、そういうところにどう対策を講じるといいのかを地元の方と一緒に歩きながら考える機会もあるといいと思った。



○これからの活用を考える

（将来活用に関わるアイデアや思いを話し合った。）

- ・小中学校の子ども居場所支援を行っているが、不登校になる子どもは増えている。流域治水になぞらえると窪地の子どもたちの支援をしてほしい。
- ・人がいなくなると寂しい環境になるため、更地はやめてほしい。
- ・大人も子供も両方が楽しめる場所になるとよい。
- ・2拠点生活をしているが、伊那の自然が好き。
- ・弥生ヶ丘高校の同窓生だが、本日は思いを語れてよかった。
- ・水に関わる知識も街づくりに生かせると感じた。
- ・IT企業を誘致して校舎に入ってもらおうなど、時代にマッチした活用が望まれる。
- ・歴史の流れを大切に、古き良き部分は残してほしい。
- ・広いグラウンドは子どもが思い切り遊べる公園にしてはどうか。
- ・建物は広く、空きスペースはたくさんあるのだから、色々な用途で多目的に使用できるのではないだろうか。

(参加者アンケートから)

第1部について

- ・下島同窓会長による案内が、青春の思い出たちを追体験している感覚になってよかった。
- ・登下校の道から見渡せる伊那谷の景観がよかった。
- ・同窓会のみなさんをはじめ「母校への想い」を強く感じられた。
- ・もう少しゆっくり校舎を見たかった。
- ・登下校の道から見渡せる伊那谷の景観がよかった。
- ・伊那弥生ヶ丘高校の歴史や周辺の環境が理解できました。また、同窓生の方々の高校への思いや愛着も感じることができました。
- ・通学路の案内も学校敷地内の案内も、かつての生徒の気持ちが分かるもので良かった。
特に、学徒動員で名古屋に行っていた生徒が空襲で亡くなり、全生徒を帰らせて学校葬をしたこと、淀川茂重校長が国策に対抗して生徒を名古屋に戻さなかった話を説明されたのが良かった。
- ・私も淀川校長は伊那小の総合学習の元をつくった教育者であったことを補足説明させていただきました。
- ・初めて高校を見学して、とても新鮮でした。
- ・大変に良かったです。ただ、校舎の中に入る事が出来ずに残念。
- ・卒業生の皆さんの弥生ヶ丘高校への母校愛を強く感じられました。しかしおそらく、在校生にはそこまでの思いはないと思います。
鎮魂碑の説明のときだったか、説明してくださった方が、在校生のときは鎮魂碑の存在を知らなかったとおっしゃっていたことから、母校愛ってどのタイミングで生まれるのかなぁ？という疑問が生まれました。
また、同窓会の方々が説明してくださって、とてもわかりやすく良かったです。参加者にどういう立場の方がガイドしてくれているか説明があればよかったと思いました。聞き漏らしていたらすみません。
- ・弥生ヶ丘高校までの徒歩でのアプローチ、街並みを感じることができました。高校敷地も改めて確認できました。
- ・大勢の方が参加してくださって、母校である弥生ヶ丘への道を共に歩き、素晴らしい場所であり、景観であることを共感してもらえて嬉しいことでした。
- ・同窓会の方々にご案内いただき、歴史や思い出なども含めてまちあるきできたことが面白く感じました。
- ・行政職員が街を案内するよりも、そのエリアに関わりの深い民間の方が案内する方が、共感を得やすいまちあるきになると勉強になりました。
- ・普段、車移動が多い中で、自分の脚を使い、地域の方の想い、歴史を知る機会は本当に貴重なのだと感じた。
- ・これからまちづくりを進めていくことになるが、これまでの歴史、想いを考慮しつつ、これからまちを使い、つくっていく人たちのニーズを考えながら広い視点で考えていく必要があると感じた。
- ・流域治水等や賑わい、防災、様々な面からのアプローチが必要であり、幅広い意見収集、整理、公表を期待しています。
- ・歩いてまわるのが楽しいですね
- ・人が積み重ねた「街」を見ることができた。この経験が一人一人に積み重なっていくのだとわかった。
- ・弥生の正門の位置を初めて知って良かったです、お散歩って良いですね。
- ・通学路から見る地域の姿、大変楽しい視点でワクワクしました。
- ・普段歩かない場所が歩きたい機会になりました。
- ・思いや背景を知ることで、伊那弥生ヶ丘高校を身近に感じることができました。自分の母校も思い出しました。

(参加者アンケートから)

第2部について

- ・ 政金さんによる「流域治水とは？」という基礎的な知識を俯瞰的に学んだ後、氏原さんによる「小沢川／小黒川」という目の前の流域にフォーカスした話に行く流れがとても良かった。
- ・ 政金さんの“もたせ”の話が興味深かった。伊那弥生ヶ丘高等学校の将来活用は「地域の"もたせ"」のような存在になれば素敵だと思った。
- ・ 一部の企業や団体が所有／管理して経営をするというよりは、さまざまな世代／立場の人々が多様に出入りし、伊那という地域全体が「弥生」に染み込んで、染み渡っていくような、そんな存在になったら良いなと思う。
- ・ 「流域治水」という考え方を具体例を交えて非常に分かりやすく学ぶことができました。業務上でも関わりがある内容であったため大変参考になりました。
- ・ 流域と産業、生活、文化の話は学術的なものでしたが、大変分かりやすい説明でした。
- ・ ランドスケープを通じての地域の見直しは、非常に有意義でした。地域の文化および防災は、地政学的考察が有効と考えます。
- ・ これからも継続可能な地域にするための、今後のこれら取り組みに期待します。
- ・ 伊那市の扇状地の模型が、新しい気付きとなりました。
- ・ 基調講演は良かったですね。その後はまあまあでしょうか、時間が足りませんね。もっと深掘りできるよう時間があればと思いました。
- ・ 政金さんの流域治水のお話の内容、大変興味深かったですし、氏原さんの小沢川の水の恵みを利用し、川に戻すというお話も、まさに川の水が流れるような話の展開でわかりやすかったです。もしかしたら、このインプットがあってから歩いたほうがよかったかもと思いました。
- ・ 改めて確認する機会になった。
- ・ 最初の敷地内貯留浸透施設の話は、庭や駐車場や活用とか、ビオトープを絡めるとか（無理かな）もう少し生活に合わせるとか工夫が欲しかった。
- ・ 伊那市の地形や水路、利水の歴史など勉強になりました。
- ・ 流域治水の取り組みには、カエルを捕まえた子どものニーズなど多様な目的を満たすことができる事が良い取り組みであるとわかりました。
- ・ 水の視点から伊那の街と歴史を振り返ることができて、とても興味深いお話でした。もっと聞きたいと思いました。
- ・ 伊那まちは川が近くて、水路も多くて本当はもっと水を身近に感じなくてはいけないと思いますが、今は感じません。まちづくりを考えていく上で、キーワードの一つになるのではないかと感じました。
- ・ 水から街の成り立ちを考えるのが良かったです。
- ・ 街の成り立ちの一端がわかった。
- ・ 雨庭のお話面白かったです。
- ・ 伊那谷には水にまつわる昔話もいくつかあります。流域と文化、より深まっていく展開にワクワクです。
- ・ 流域治水について、非常に分かりやすく説明していただけてとても良かったです。
- ・ 近いから伊那を考えたことがなく、新鮮でした。

(参加者アンケートから)

Q. 今後、伊那市官民共創の新しいまちづくりにどのように関わっていきたいですか？

- ・ 弥生チームを中心に、他のチームの動向も気になるので、広く積極的に参加していきたい。
- ・ リニア駅周辺整備を担当しており、リニアを見据えた広域での連携やリニア時代のまちづくりといった部分で関わっていきたいと思っています。
- ・ 市民参加のまちづくりを推進されていることが重要だと思います。高校生の参加、若者の参加を企画してください。弥生の校舎を利用した博物館と学びの場にする、その中に市議会で決議している平和資料室を求めて参加していきます。
- ・ 不明（何ができるか未定のため）
- ・ 業務の一環で関わります。
- ・ 主体的と言うよりは特に若い人達の発言に耳を傾けて彼等の意見を理解してサポートしたい。
- ・ まちなかエリアWGでも、実際歩いてみてもよいかと思いました。そのつもりで歩かないと見えないことがたくさんあるなと再認識しました。歩くことって、体にも心にも良いし、歩きながら何かを発見することは、絶対楽しいので、最近散歩系のテレビ番組が人気なのも頷けます。
- ・ 市民の皆さんの意識や考えを知る機会として関わっていきたいと思います。
- ・ お知らせがあれば、できるだけ参加したいと思います。よろしくお願いします。
- ・ 様々な立場、視点、思想の方がいる中で、全員がより自分ごととして、地域全体のありたい姿として伊那やまちに関わっていきたいと思えるまちづくりの一端となるとともに、自分自身も家族を含め、伊那市民としてどのようなまちになっていったら良いのかを考え、アウトプットしていきたい。
- ・ 日頃から考えていきたいと思います。
- ・ 積極的に考えたいです。
- ・ 自分が考える、自分ができること、を重ねていきたと思う。
- ・ とくとき参加してみたいかな？
- ・ 今年創造館の映画祭に伊那谷にまつわるアニメーション作品を出品予定です。なにか子供達の伊那谷での発見をお手伝いできれば、という気持ちです。町を知ること面白いのです。
- ・ そっと遠目から。
- ・ 子どもも大人も楽しめ、学べる場を作るために、一緒に考えていけたらと思います。

(運営メンバーから)

■伊那弥生ヶ丘高校将来活用ワーキンググループ

○リーダー 平賀 裕子

第1部は、通学路含め、同窓会の皆様の想いを聴ける貴重な時間となりました。坂の途中から見える南アルプスとその下に広がる伊那谷の風景、雄大な伯先桜、歴史を感じさせる伊那部宿へとつながる道など、風景が人を育ててきたことがよくわかりました。校舎に着く手前で耳にした今の軽音学部の演奏、銀杏並木、校舎、慰霊碑、部室など、それは時代をつなぐ青春そのものでした。卒業生の思い、在校生の青春、風景、という新たな視点を取り入れる必要を感じました。

第2部の政金さんと氏原さんのお話も、専門的な話でしたが、とてもわかりやすく話して下さいました。流域治水も自分たちのエリアのことだけを考えるのではなく、全体の一部としてのエリアという考え方や、プロセスを楽しむ参加者を増やし、巻き込んでいくという手法は街づくりにも共通するものだと感じました。また、水の歴史を深掘りすることでみえてくる街の成り立ちは非常に興味深く、水路を散策する機会を別に持ちたいです。

第1部、第2部を通して、「思い」「風景」「歴史」「全体にとって何がベストか」「プロセスを大切に」「地形」「水」という新しい視点を得られました。同じ視点でしか考えられなくなりがちですが、新しい視点で将来活用やまちづくりを考えた時に全く違う世界がみえてきます。自分自身にとっても視野が広がる大変貴重な機会を頂きました。

新しい視点をもって、もう一度、将来活用を考えてみましょう！

○大塚 純

予想以上の参加者と、弥生が丘における予想以上の物語に、参加者が充実感を感じているのが伝わってきました。屋内で座って話すだけでなく、こういった身体全体で伊那の素晴らしさを味わうイベントは、まちづくりに限らずもっともっとあっていいなと思っています。

対話会はそれぞれの方の熱量が高く、話し始めるとやはり時間が足りない。これが何かになるかならないか以上に、こういう場があることが地域コミュニティとしての価値だと思います。同じ場所を共有する仲間として、多くの共感が生まれていました。

全体通して思うのは、このイベントを良い形で残し共有したいと思う事です。動画でもいいし、Noteでもいいし、デジタルでいつ誰が見ても良い学びになると思うし、改めて交流の歴史を振り返るきっかけにもなりそう。

(運営メンバーから)

○山本 風音

1部2部を通して、さまざまな視点を行き来しながら、弥生ヶ丘高校やその周辺の景観を読み解き、これからのあり方を考えるという流れが面白く、刺激的でした。川の視点、水の視点、人々の営みの視点から、それぞれが互に関わり合った過程に今の地域が成り立っていることをあらためて感じました。また、第1部のまちあるきや同窓会の方々の語りを通して、一人ひとりの高校での思い出や、同窓生としての思い、今の高校生たちのバンド演奏の音や通学の風景などが折り重なり、地域における高校という存在とそれが意味するものを、歴史的な視点と身体的な体感を交えて理解するきっかけになりました。

そうしてこれまで受け継がれてきたことが、今ある具体的な風景を形作っていて、それを元にこれからのあり方を探っていく。そのための視点を持つ大切な機会になったのではないかと思います。水が川上から川下へと流れていくように、これまでの成り立ちや過程を忘れずに見つめながら、未来につなげていくものを皆さんと一緒に作っていききたいなと思いました。

○政金 裕太 氏

まち歩きとワークショップの組み合わせは実感を伴う勉強の機会になると思いました。インプットの情報の質がリアルで、アウトプットに気持ちや思いが乗りやすい気がします。まち歩きは、地形を感じることで、なぜそこに学校があり、なぜ街道があり、なぜまちができたのかを知るいい機会になりました。他のまちづくりのイベントでも歩くことは重要な気がします。地域に詳しい方を講師として招くことで、協議会メンバーだけではなくて、地域の方が活躍できる機会にもできると思いました。

○氏原 睦子 氏

伊那弥生ヶ丘高校のこれからの流域単位で考え、行動されることは、とても素晴らしいと思います。

水のみちをはじめ、段丘崖ならではの石積みや家並みの有様は、いちいち理にかなっていて、私たちが日頃から目にする伊那谷の風景は、先人の知恵と技術の集積なのだと実感しました。こうして脈々と受け継がれてきた「こと」や「もの」を将来につなげていけるご提案となることを期待しています。

そして通学路が急坂なもの、いまさらながら納得。久しぶりに母校の大根坂を歩く機会をいただき、また素敵な先輩方にもお会いでき、とても楽しい会となりました。

○伊那市商工振興課長 柴 正人

通学路校内の散策と講義と対話をミックスした企画が新鮮でした。語り部の皆さんの熱い思いを現地で聞いたことが印象的でした。流域治水のお話も今までの街づくりの視点にはない切り口で興味深く拝聴しました。平賀研也さんが持ってこられた凹凸が分かる精度の高い地図はすごいと思いました。対話は、時間がもう少し欲しかったのとやはり要望が多い感じでしたので、主体的に考えていただける方を見つけていくのが課題と思います。 諸々書きましたが、天候にも恵まれ、弥生WGの1回目、良いイベントになったと感じています。



伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

伊那新校、上伊那総合技術新校の開校を契機に、
多様な皆さんとこれからの伊那市のまちを共に考えて創っていきたいという想いで「新しいまちづくり」が始まりました。

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

誰かがやってくれるまちづくりに意見する、ではなく、自分がつくる、取り組む人と共にある。
そんな、つながり、対話し、実現する場をどうしたらできるだろうか。

これからは、想いのある皆さんと共に考え、試行錯誤しながら共創の場をつくっていければと思います。

いつでも、思い立った時に、ふらりと参加でき、まちのこと暮らしのことを気軽に話せる場。
もっと知りたい、もっとやりたい、やってみようが生まれる場。
そんな新しくゆるいコミュニティが生まれる場。

そんな、いつでもそこにある場に育てていきましょう。